



持続可能な付加価値創造都市を目指して
～SDGs未来都市とやまの取組～

富山市環境部環境政策課 東福光晴

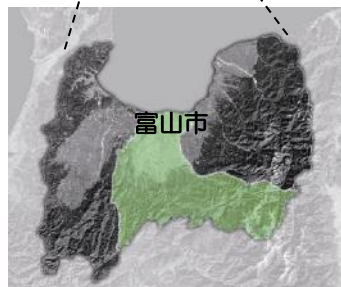
富山市の概要

- ・人口は、富山県全体の約4割(418, 686人 H27国勢調査)
- ・面積は、富山県全体の約3割(1, 241. 77km²)
- ・海拔0m(富山湾)から2, 986m(水晶岳)までの多様な地形
- ・令和2年度一般会計予算額 約1, 655億円
- ・森林面積が市域の**約7割**、包蔵水力・地熱資源量**全国2位**(県単位)

■日本地図



■富山県全図



富山市のまちづくりの基本方針 ～コンパクトなまちづくり～

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、
公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

<概念図>

富山市が目指す**お団子と串の都市構造**

串 : 一定水準以上のサービス
レベルの公共交通

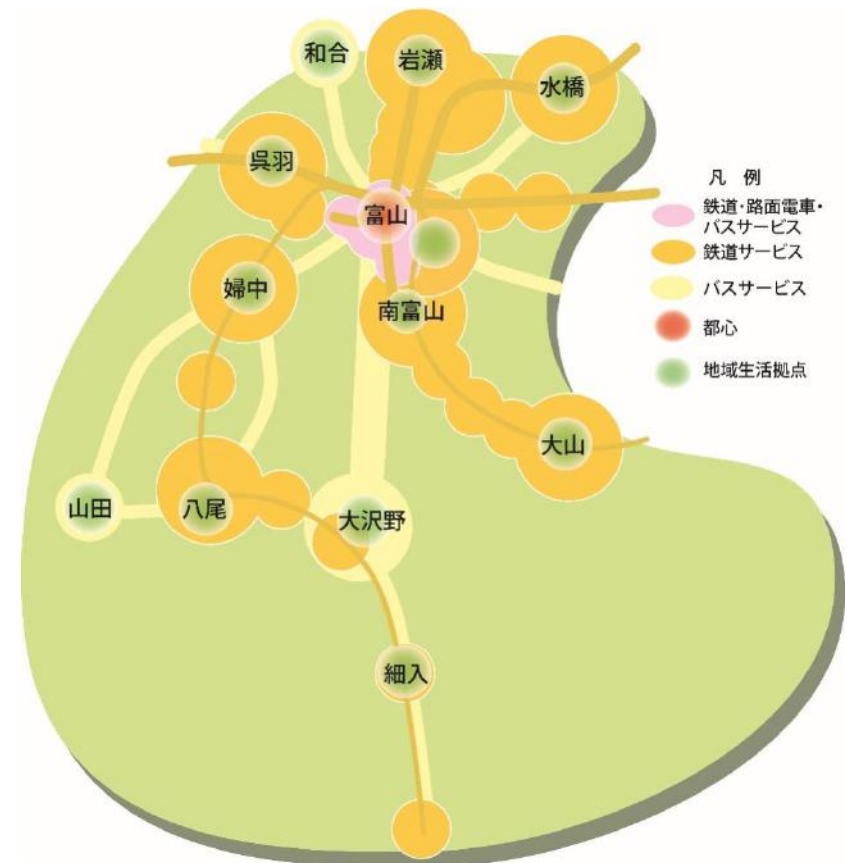
お団子 : 串で結ばれた徒歩圏

<実現するための3本柱>

①公共交通の活性化

②公共交通沿線地区への居住推進

③中心市街地の活性化



持続可能な付加価値創造都市を目指して ～SDGs未来都市～

環境モデル都市、環境未来都市の取組の蓄積を活かし、**SDGs未来都市**を推進

低炭素社会の実現
「環境モデル都市」(2008年～)



環境・社会・経済の課題に対応
「環境未来都市」(2011年～)



「エネルギー効率改善都市」
(2014年～)



SDGs未来都市に向けての取組み



富山市SDGsレポート
(日・英版)の作成
(H30年7月)



再エネ水素ステーションの開設
(R2年1月)

環境面、経済面、社会面の更なる統合的価値向上
を図り、**持続可能な付加価値創造都市**を実現



富山市が目指す「まちの将来像」 ～富山市のSDGs2030ビジョン～

【目指す将来像】

コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現

【取組方針】

都市のかたち：公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの実現

地域生活拠点とのネットワーク機能を高める「コンパクトシティ」へ

市民生活：ヘルシー＆交流シティの形成と質の高いライフ・ワークスタイルの確立

地域が一体となり健康・子育て・教育環境を充実させる「ヘルシー＆交流シティ」へ

エネルギー：セーフ＆環境スマートシティの実現と地域エネルギー・マネジメントの確立

レジリエンスと脱炭素化等の取組みの融合による「セーフ＆環境スマートシティ」へ

産業：産業活力の向上による技術・社会イノベーションの創造

市内企業の活性化や新技術の活用等による「技術・社会イノベーション創造都市」へ

都市・地域：多様なステークホルダーとの連携による都市ブランド力の向上

官民連携・ダイバーシティ・国際展開による都市ブランド力を高めた「選ばれる都市」へ



1. 「都市のかたち」

コンパクトシティ

公共交通の活性化 ～LRTネットワークの形成～

LRTネットワークの形成により、過度に車に依存した
ライフスタイルを見直し、**歩いて暮らせるまち**を実現



2. 「市民生活」 ヘルシー＆交流シティ

歩くライフスタイルの普及(Toyama Smart Life Point 事業)

- 歩く行動に対してポイントを付与するスマホアプリを開発
- ポイントに応じた景品をインセンティブとして、歩くライフスタイルを普及



※イメージ図

①歩いてポイント



歩数計機能

②公共交通を利用してポイント



Beacon対応

ポイント付与



GPS

QRコード

参加
確認



GPS・QRコード対応

イベント
情報



Beacon

③イベントに参加してポイント

【抽選により景品】



「とほ活」ベンチプロジェクト

R2年度より事業開始

市民や来街者が、より長く快適に歩くことができる歩行空間の整備を目的に、地域や民間企業等と連携しながら取り組む「とほ活」ベンチプロジェクトを開始

市による整備（市有地）

①ベンチの新設

- 企業版ふるさと納税、寄附、国庫補助金等を活用し、新たなベンチを新設



▲寄付者プレート
(イメージ)

②既存ベンチの再整備

- 国庫補助金等を活用し、修繕等の必要なベンチを再整備



民間による整備（民有地）

③民間設置への補助

- 個人等に費用の一部を補助（設置費の2/3・10万円上限）



中心市街地等における主要な歩行動線上の道路や公園、公共施設の近く等に設置
→中心市街地の活性化や外出機会の創出、公共交通の利用促進に寄与

【構造・仕様】

耐久性の高い再生木材を使用するなど、維持管理コストの低減を図る。

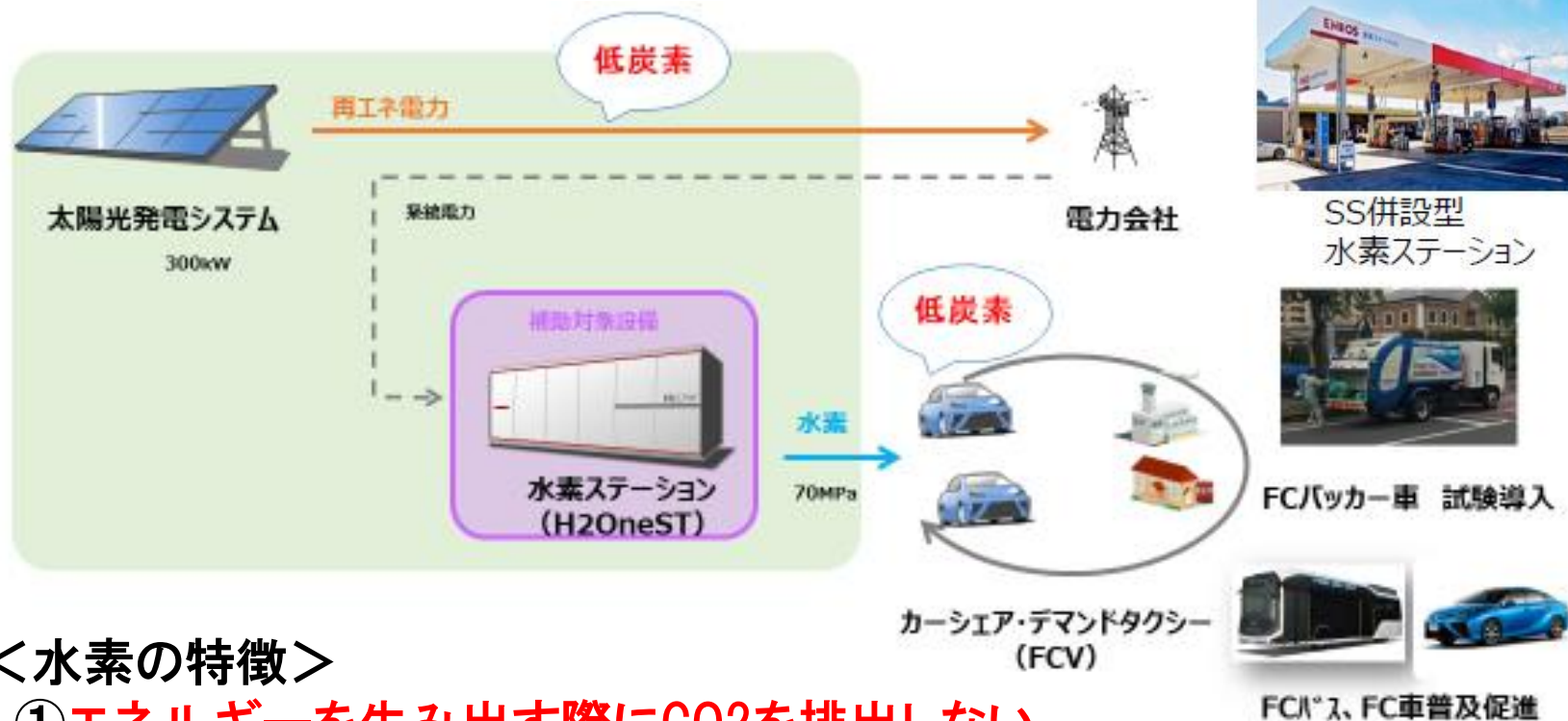
【事業スケジュール】

R6年度までに計100基の設置を目指す

3. 「エネルギー」 セーフ&環境スマートシティ

水素社会の実現に向けたインフラ整備

新たな水素インフラとして、商用水素ステーション(民間敷地(富山市上富居))及び再生可能エネルギー由来の水素ステーション(富山市環境センター内)を2019年度に整備



＜水素の特徴＞

- ①エネルギーを生み出す際にCO2を排出しない
②製造方法が多様である(水の電気分解、メタンの水蒸気改質 等)
⇒水素自動車の地域交通としての導入可能性を検討

セーフ&環境スマートシティの形成 ～サイバー空間のスマート化～

富山市センサーネットワーク構築事業

市全域にわたるLPWA (LoRaWAN)による通信ネットワーク網を構築、市の全ての業務・市全域でIoT化を推進



4. 「産業」

技術・社会イノベーション 創造都市

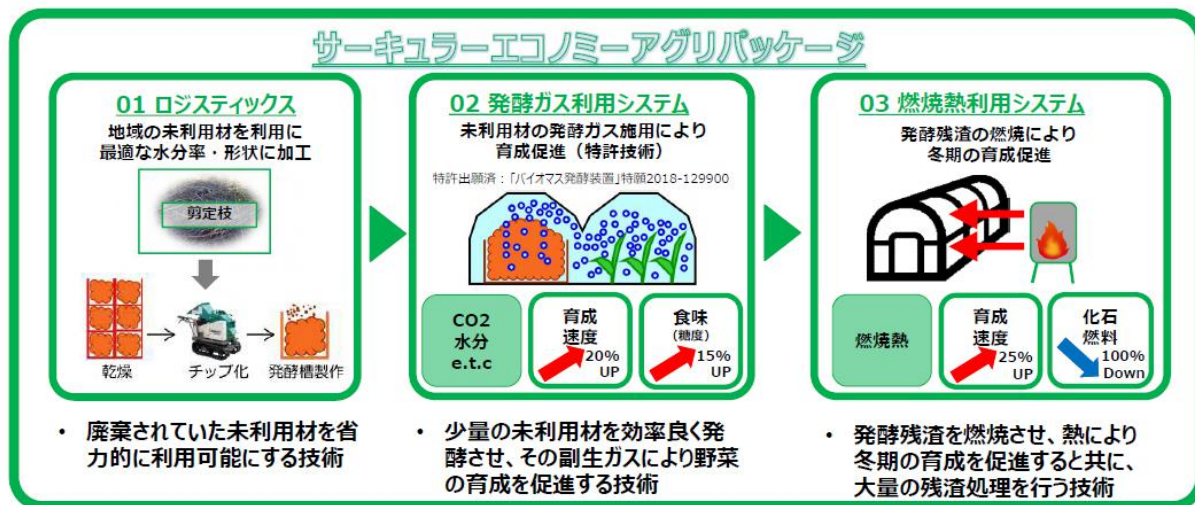
梨剪定枝等のバイオマス利活用実証

梨剪定枝等のバイオマス利活用実証

郊外や中山間地域の振興

呉羽丘陵の自然資源を活かし、多様な魅力を最大限に引き出すため、梨の剪定枝のバイオマス資源を活用し、バイオマスから創出する熱・電気エネルギーを公共施設・温浴施設・ハウス栽培等へ還元する仕組みを実証

【本事業実証の詳細】



梨剪定枝を入れたラック



CO2施用区（コマツナ栽培）

CO2施用区で栽培したコマツナは、通常の農場に比べ、重量が**58%**、葉の糖度が**30%アップ**

とやまシティラボ ～ 地域課題解決型官民連携プラットフォーム ～

富山市全域を「ラボ(実験室)」に見立てた、**地域課題解決型の官民連携プラットフォーム**
「Sketch Lab(スケッチラボ)」を設置。富山駅前の市有施設内にオープンイノベーション拠
点を整備し、市内外の企業や大学、行政等による**ビジネス交流・共創の場**として運営

本市の課題

- 将来的な財政逼迫（迫られる選択と集中）
- 公共領域を担える民間プレイヤーの不足
- ものづくり県ゆえの硬直化した産業構造・企業体質
- 高度情報化による社会構造の変化への対応

課題解決の方向性

- “プラットフォーマー”としての行政
- 都市人材との人材循環・交流機会の創出
- センサーネットワーク**を活用した**実証機会**の提供
- オープンイノベーション促進とスマートシティ推進



5. 「都市・地域」 選ばれる都市

官民連携の動き ～SDGsの推進に関する包括連携協定締結～

社会課題の多様化 ➡ **共感** 異なる組織や立場がSDGsで繋がる
パートナーシップの重要性



北陸電力(R1.7.1)



北陸銀行(R1.8.9)



日本海ガス絆HD(R2.1.21)



三井住友海上火災保険
(R2.10.2)



富山信用金庫(R3.1.29)

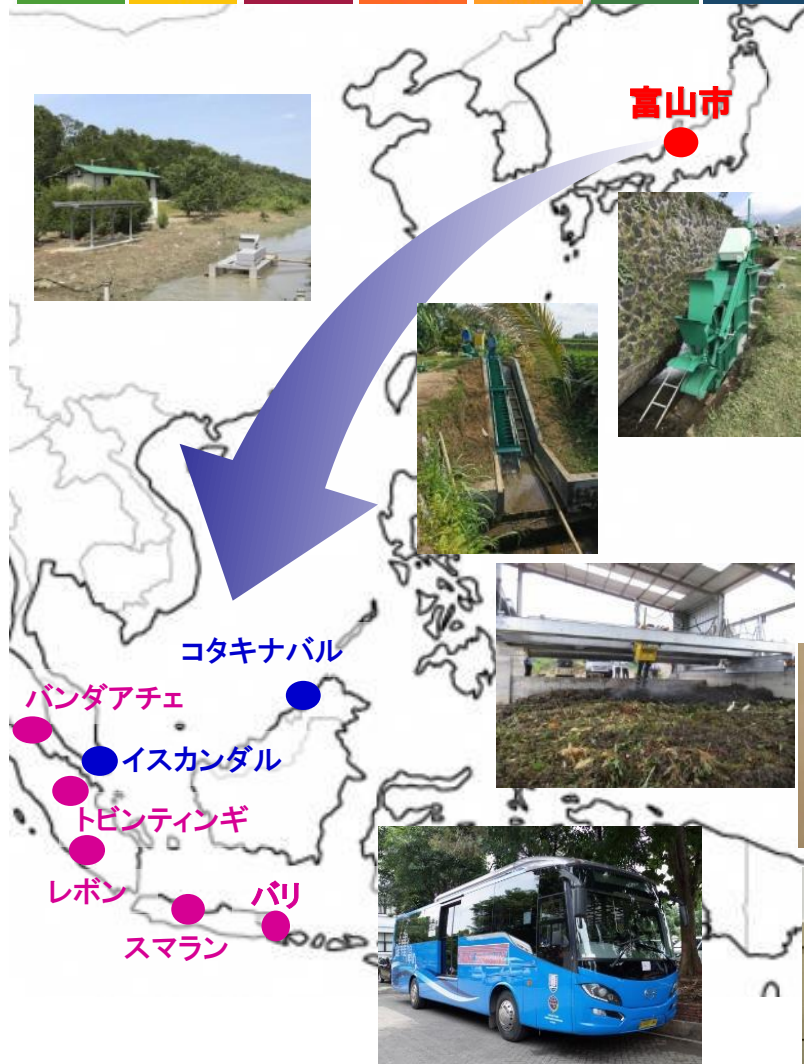
「持続可能な未来に向けた多世代の学びの場づくり」など、地域社会の持続的な発展に向けた施策の連携強化

都市の理想を、富山から。



地域が「**ワンチーム**」でSDGsを推進

富山市の都市間連携 ～富山市の技術とノウハウの輸出～



バリ州 タバナン県(インドネシア)

中部ジャワ州 スマラン市(インドネシア)

ブンクル州 レボン県(インドネシア)

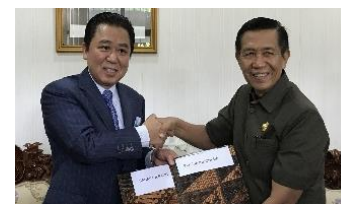
バリ州 クルンクン県(インドネシア)

イスカンダル開発地域(マレーシア)

コタキナバル市(マレーシア)

アチェ州 バンダアチェ市(インドネシア)

北スマトラ州 トビンティンギ市(インドネシア)



SDGsの普及・展開活動

SDGs推進サポーター登録 / コミュニケーター養成

SDGsを自分ごととして捉え、実践を行うための「**富山市SDGsサポーター**」の登録を2019年度から開始



SDGs関連イベントその他の情報提供や、各自の具体的な取組を集約し、SDGs優良事例としてサポーター間で共有

* 2020年12月現在 約700名、120団体・企業が登録

地域・職場等でSDGsを広め、自ら実践する「**富山市SDGs推進コミュニケーター**」養成講座を2020年度から開始



コロナ対策として、会場の感染予防対策の実施やオンラインでの受講を併用

* 2021年1月現在 52名を認定

富山市SDGsウィーク

市民や企業へのSDGsの普及啓発を目的に2018年度から開催(3回目)
SDGsを「知る」「理解する」「実践する」「発信する」の一連のステップをウィーク期間中に体験するためのイベントを開催
最終日(1/31)には、富山市SDGs推進フォーラムを開催(参加者数:310名)



コロナ感染予防対策を実施するとともにオンラインでの同時開催

富山市SDGsウィークチラシ

SDGs自動販売機の設置 <全国自治体初>

「フードロス削減」に向けて、北陸コカ・コーラボトリングと本市が連携協定を締結
市役所1階市民ホールにSDGs自動販売機を設置

賞味期限が近い余剰在庫の製品をフードロス対策として並べ、割安な価格(1本80円)
で販売→売上の一部は市に寄付され、SDGs関連事業として活用



フードロス対策の製品を取り扱う自動販売機＝富山市役所
(KITANIPPON SHIMBUN)



SDGsは、「新たな世界」への転換

都市の理想を、富山から。



SDGs 未来都市
TOYAMA

行動の10年

Decade of Action

SDGsを「**自分ごと**」として、できることから取り組んでみませんか？

